

再生粗骨材Mを用いたコンクリートの上部躯体適用に向けた検討

高橋 祐一¹⁾, 松田 信広²⁾, 竹内 博幸¹⁾

Study on an Application for Concrete Using Recycled Coarse Aggregate Class M to Building Flame

Yuichi Takahashi¹⁾, Nobuhiro Matsuda²⁾ and Hiroyuki Takeuchi¹⁾

■ 要 旨 ■

本検討では、再生粗骨材 M を用いたコンクリートを乾燥収縮の影響を受ける上部躯体に適用することを目的とし、再生粗骨材 H および M を用いたコンクリートの耐久性を比較した。さらに、実用化を想定した再生骨材の品質管理方法について検討を行った。

その結果、再生骨材コンクリートの耐久性は、再生粗骨材の品質区分によらないことを確認した。また、乾燥収縮の品質管理には、早期判定を適用できることを確認した。

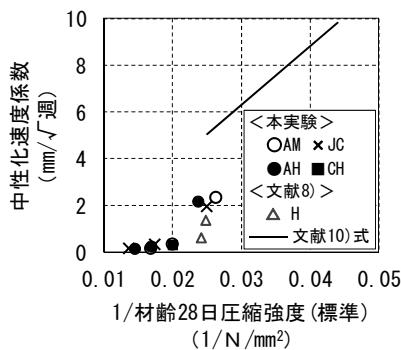


図 23 圧縮強度の逆数と
中性化速度係数の関係

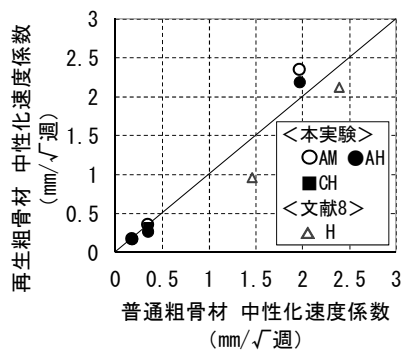


図 24 普通粗骨材と再生粗骨材の
中性化速度係数の比較

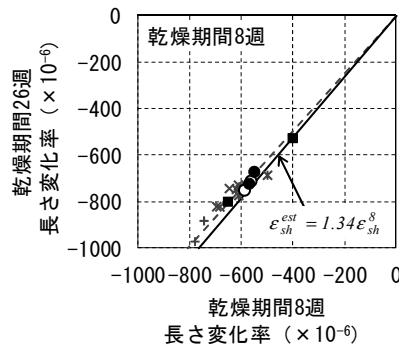
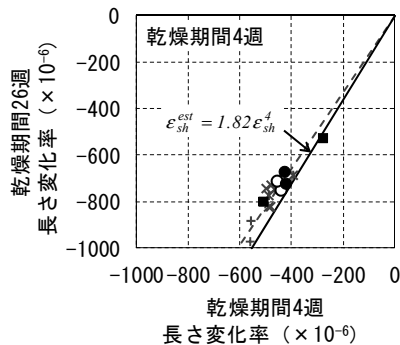


図 25 各乾燥期間における係数 α の妥当性の検証

1) 技術研究所 建築技術開発部
2) ㈱東京テクノ

* 日本建築学会技術報告集, 第22巻, 第51号, 2016,
日本建築学会, pp. I_415- I_420 掲載